

啓善

諸本省  
来翰

明治七年一月ヨリ  
全九年十月マテ

啓善

諸本省  
来翰

明治七年一月ヨリ  
全九年十月マテ

204



營本  
諸省  
来翰

明治七年一月ヨリ  
全八年十二月マテ

東京庶務課  
帝國大學

部門

番

3

五十年史料

204



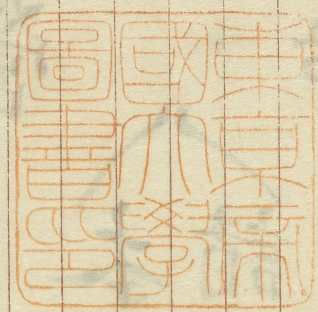
營

繕

本省  
諸方  
來翰

明治七年一月ヨリ八年十二月迄





B 95489

第十八番

明治七年一月十五日

其校教場を以て外に物に必要なるものを備へて  
人並に其間可成り電氣圖等々を採りて一室に  
陳列する事と爲す此其の要細末等あり  
之を以て殿中陳列也

本省

明治七年一月十五日

宮儀課

医学校

宮儀課

法中

進学法指令海軍進学令並に海軍進学令



お返し包はる品物なりと申すは事なりは  
リモ此等為念中申す也

源 隆 保

明治二十一年一月十五日

入るる物に包はるる品物なりと申すは事なりは  
リモ此等為念中申す也

第 八 卷  
八 卷

奉 差 上 付 清 書

医学博士教師 藤田トセーブルクは、物新親  
を、坪、付、値、工、子、間、希、銘、打、工、子、間、と、も、代、合  
を、同、三、格、七、残、り、中、一、ヲ、以、テ、石、 仰、有、る、を、知、る、事、是、  
然、ル、上、モ、蒙、馬、中、國、ヲ、同、書、本、来、可、任、代、は、り、石、  
後、後、馬、清、書、奉、る、と、也、

明治二十年一月

源 隆 保

明治二十年一月

源 隆 保

明治二十年一月



明治二十一年一月

明治二十一年一月

明治二十一年一月

明治二十一年一月

明治二十一年一月

明治二十一年一月

明治二十一年一月

明治二十一年一月

明治二十一年一月

明治二十一年一月

明治二十一年一月

明治二十一年一月

其本校去年三月限り彼等決定額金比并減  
こつたは沙おまじは通身明後廿七日通牒しあふ裁  
断金一同決り出りたり也

平成一月廿日

菅江深

東京

医学学校

明治二十一年一月



卷之四

平水一四音

卷之五

卷之四

其說又西科則區說之說亦著於後

芽

弟七十五号

第一大學區

醫學校

第三貨渡置此旧金沢師長家今般入用  
乙納了致事

但夫收入用と第ハ外長必可貨物化スル氣ヲ  
可心得事

明治七年二月十二日

文部卿木戶孝允



明治三十二年二月十日

文部省

文部省

文部省

文部省

文部省

明治三十二年二月十日

旧加洲郎門は校油諸長屋今丁般当教天文学  
教場之用は係本有同所は成はるは後十有日  
と後其第一所を成はる諸取は者同所は成はる  
改はるは成はる一頁は成はるは成はるは成はる  
は成はるは成はるは成はるは成はるは成はる

明治三十二年二月十日

同成学校

同成学校

法中



一、

明治七年二月九日

文部卿

其校構内フシクブラウシ兩人居館入用ニ付  
上野山内コッヒス居館へ兩人共移轉為致コッ  
ヒス義同山内軒寺之内へ新築館一字可貸  
渡候條右兩人相談引移日限追テ可届出此  
段相違候也

明治七年二月九日

第廿四番

第一大學區

醫學部

其校構内フシクブラウシ兩人居館入用ニ付  
上野山内コッヒス居館へ兩人共移轉為致コッ  
ヒス義同山内軒寺之内へ新築館一字可貸  
渡候條右兩人相談引移日限追テ可届出此  
段相違候也

明治七年二月九日

文部卿 木戸孝允



大隈博士

明治七年二月十日

大隈博士

東京大学

大隈博士

東京大学

大隈博士

大隈博士

大隈博士

大隈博士

大隈博士

品目フニクブラウン西氏系上野山内エユツ

フユス居教に後新方後日限方と出たは違ふが

片方未決定に改候がその成又早急に改

年日限縁に改候がその成又早急に改

也

本局

明治七年二月十日

醫務局

醫学校

長中



醫學部

明治七年二月十七日

文部

卿木戸孝兄

上野四軒之内、教師館一宇新築が落成し、  
引渡可申候條、明治十一年二月十七日、  
員指込可申此段相達候也

第九十二番

第一大學區

醫學部校

上野四軒之内、教師館一宇新築が落成し、  
引渡可申候條、明治十一年二月十七日、  
員指込可申此段相達候也

明治七年二月十七日

文部卿木戸孝兄







開成學校

漢學校

法中

臣等知文筆辭意此乃身所可回者多、故在也

第七十五番

第四百四号

第一大學區

醫學部

舊金澤師範長家至急法入用、可明渡旨  
返日相達此處于今無其儀不都合二候条  
早々明渡可申此旨更相達候事

明治七年二月廿日

文部省



Blank lined area for text on the right page.

学第ニ百ニ千四

東京

醫學学校

其校に雇教授ホルツ儀是迄完成ニ学校製作  
學教場核續ニ教師籍ニ羅在ル支取今入用  
ル余同人トモ本師ハ番教昨籍可ニ復於之  
ト急決判ヲ遂ニ轉移ニ万存計ニ決方ニ達  
也

明治七年二月四日

文部卿木下孝允



（Faint vertical text in the right column, likely bleed-through from the reverse side of the page.)

学第百三十八号

東京

醫学校

其校に備教授人フニリヨリ別紙和訳し通リ  
出ル旨と御境内コツクス館内因ノテ新テ假寓  
仕居室方々々々改メ代見候一此テも支  
係等々且フニリ居館ニ都合一俤々見込  
高可ヤ此段お達也

明治七年二月日

文部卿木戸孝允



御國政府ヨリ私へ醫  
 學校迄傍ニ居家一宇御資渡相成候得共元来  
 濕地不健康之場所ニ御座候故私儀屢々病ニ  
 罹リ難儀仕候ニ付客歳十二月中旬上野一等  
 軍醫トクトルヒエウルル氏へ轉居仕其後全  
 快ノ上元地へ帰住仕候處病徴再發ニ付既ニ  
 當一月又々移轉仕度存候處同僚トクトルコヲ  
 ヒウス氏ノ信義ニ依テ同氏ノ別室ニ寄留仕  
 候右様私ノ健康ニ害アルハ御國政府ノ御  
 為ニモ且私為ニモ相成不申候間左ノ件々御  
 省へ奉願候  
 一トクトルヒルゲンドルフトクトルコヲヒウス



及ヒニイウエルト氏等ニ元テ行ハル、居館同  
様健康ノ場所ノ居家御附與相成度事

一右居家御貸渡相成候迄ドクトルユウウス  
氏ヨリ既ニ明ケ渡サレタル家屋御貸渡相  
成度事

右御採用相成候様仕度此段奉懇願候謹言

千八百七十四年二月廿七日 トクトルフニク

文部省

御中

る八番

学第三百七十九号

東京

醫学校

其校医雇教授ホルツ居館之係本々八番教師館  
へ役轉為致可申方第々相違し置在れ同成学校  
教授一名即今本國ヨリ来航可成有テハ從不  
ホルツ居館貸渡不申テハ不成就此条因人係至急  
引拂は係迅ニ談判可通可申此段再應可達事

明治七年二月十日

文部卿 木戸孝允



*[Faint vertical text in columns, likely bleed-through from the reverse side]*

高松藩内ホルツ佐居之教沙館正三番中水也

明治七年三月廿日

開成学校

医学校

法中



Blank lined area for text on the right page.

第百七号

東京

醫學夜

御雇外國教師一官舎貸渡事  
此處自今便更之  
ニ宿科可相渡  
此處自今便更之  
波片モノト雖モ官舎ニ在寓スルヲ好マサルモノハ宿  
科老々月凡ソ之拾圓方渡  
此處自今便更之  
係方若越外國教師等ノ不達可左計以方相達  
也

明治七年三月廿二日

文部卿 木戸孝元



追テ居館不足ノ分ハ宿料別進可相渡片  
事

第百九卷

學部四百五十五号

東京

醫學校

其校中雇教授フニヨリ居館轉換之儀願出  
其校中ニ立之次第モ有之候旨本郷用地内新  
築七番館可引度候係同ノ旨實渡可申右内人  
ハ別紙寫之通回ニ申遺候條此段相達候也

明治七年二月二十日 文部卿 木戸孝允



（Faint handwritten text in vertical columns, mostly illegible due to fading. Some characters like "東京" and "大学" are visible in the right margin.)

（Faint vertical text on the left edge of the right page.)

去月廿七日附之書翰披見致し候然ハ貴下居館之儀ニ付テハ委曲東京醫学校ニ相達置候條同校ヨリ美知可省之候此段回答申入候也

明治七年三月 日 文部卿 木戸孝允

ドクトル フニワ 貴下







（Faint handwritten text in vertical columns, mostly illegible due to fading. Some characters like '東京' and '大学' are visible in the rightmost column.)

乙卯年

学第百七十四号

東京

醫學校

上野公園に於て醫學校及病院建築之像ニ  
付別紙之通正院上陳度蒙朱書之通決裁相  
成度身心得之為一應在達置度也

明治七年二月十四日

文部省



予る如く

當省用地上野山内ニ於テ醫學校及  
病院建築之儀并同

當省用地東京府下上野山内ニ於テ醫學校及病  
院建築之儀并同先年來屢ニ申客歲一月  
例ニ通リ拈合ニ歲比抑同校現今之地ルニ東  
京府下最モ早濕ニ地ニ位シ醫學校病院等設  
置ニ不適云々是亦客歲四月中具陳仕度通ニテ  
夏時過熱之際人身之健康ヲ害シテニ客歲之  
如キ生徒疾病ニ罹ル者殆半ニ有之ル此度テモ殆  
ニ本校之衰微ニモ至リテ中ニ古別校ヲ以テ同校  
長及教師ヨリ陳述仕度通ニカク便於テモ方今  
所多費之際ニモ度得共前件不得止事一情



且本後復屋追大破就中病院等に至る度テハ  
彼此最早一日ニ猶豫ナリカタキ決オテ有差当リ費用  
之建物別紙繪圖面ニ通テモ即今ヨリ着手ニ構  
造之儀ニシテ早ク以テ漸次成功ウベシ候リニ有テ  
依テ繪圖面并ニ建坪金ニ概算別紙添附スル  
度左ノ省常額金増額之儀ニ付カセテ御座未タ  
御裁定ニ付度得リモ前頭建築ハ目前難儀係  
方之度条経費ニ係スル以テ進捗上及御座候様  
成度ハ漸次構造之儀ニ付経費一時ニ御出方ニ  
お申度候ニ付無ニ度方此段至急ニ候度也

明治七年一月廿日

文部少輔田中不二彦

太政大臣三條實美殿

伺之趣緊要ニ事件ニ度得共費用多端  
皇居御造営ニ付延引ノ折柄ニ付難聞ニ  
事

明治七年二月二日

太政大

臣三條

實美印



才乃良子記

醫部省

東京

醫學校

其校攝内文中根郎之儀司藥場引渡り申此  
段相違候也

明治七年四月廿日

文部省

東京大学



Blank lined area for writing on the right page.

才力百四十九号

會計部百十八号

以校官員借注し官宅破損を修繕せし後而之を  
てあるべきを以て油断はせし一級を  
為支別段増添せし如く修繕を施せしに在り  
りて建築係後之關係あり一級を以て修繕  
を停止せしを以て校常費金に内し以て修繕  
可也と存せし段々四ノ元ありといふ也

文部省

明治七年四月廿七日

會計課長

東京

醫學部校長

法中



[Faint vertical text in the right column, mostly illegible]

学第百九十六號

東京醫術学校

其校上野山内新築之儀先般正院申指令以力達  
在通計許可不相本然交其校厦屋大破地形  
早湿河レニモ今年ハ猶豫難相成就ハ用達多端  
之際ハ其得レモ前件不得止次才育ハ金七萬圓在  
費用ニ可元其間講堂病院寄宿舍等因今至急  
必須之部分已貯金額ヲ目途リテ會計課於新築  
万取計其旨達坪園面等精細取調至急可申出此  
上相達也

明治七年四月廿七日文部卿木戸孝允



[Faint vertical text in the right margin, likely bleed-through from the reverse side.]

学第百九十六号

東京醫学校

其校上野山内新築之儀先般正院御指合より以て達  
在通計許可不相成然其校屋大破地  
早湿河レニモ今年ハ猶豫難相成就テ用達  
之際ハ其得リモ前件不得止次才  
費用ニ可元其間講堂病院寄病舎等  
必順ニ分分己方金額ヨ日達リ  
万取計其旨建坪図面等  
与相達也

明治七年四月廿七日文部卿 木戸孝允

当校新築所達



東京大学

東京醫学校

先般其校常費改定之節新規築造之儀に  
於本有受分可致あり但書ヲ以相達あり  
今後公築造之儀に意附其校處分可致尤  
費用同之義に定規之通に所計の分更に相達  
事

明治七年三月四日 文部少輔田中不二麿



Blank lined area for text on the right page.

少校の雇教少館私采を以てしるは中  
多ありは間掛りて内さ人引利ありあり  
い段中——（此也）

文部省

賞格掛

七年八月廿四日

東京醫學校

賞格掛

法中——



舎第百八号

上野公園ニユルレロホフマレ居館分凡右冊通行  
にリモ新規建設ニ候旨宮内省より分致馬ニ通  
申越る事々々方回差あり通其条より注仕  
あり違也

明治七年十月九日

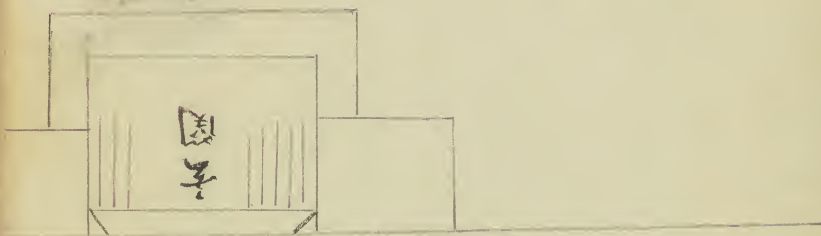
文部省

東京醫学校









世方  
之工儿儿住居

東京大学  
學



世宗憲皇帝御筆

新規建門

いふ事

ホフマン氏

本校外國教師不日來着之趣、今居敎新築及本  
校連弓校教師、敎二宮陽中、沼津中、西中、城  
島、改富、知正、大森、三於テモ、本國古注文、以爲一置此  
教授、教人者、其自來着、何才入用之、其右、新築  
及本、山、元、江、中、川、用、之、片、ヲ、与、之、又、之、其、案、此、也  
四回、是、あ、う、い、れ、也

七年十月十日

東京成學校

本省

近今所用之可申 五種之為收攝內八為号



く或館よりくは来ひ各中へ添仕也

（Faint handwritten text in multiple columns, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. Some characters like '事' and '日' are visible.)

第百八十六号

清校病院建築地所奉御用地内より西へ  
東へ西へ南へ北へ  
（Faint handwritten text describing land boundaries and directions, including characters like '西', '東', '南', '北', '間', '段', '口', '時', '方', '間', '段', '口', '時', '方', '間', '段', '口', '時', '方'.)

明治七年三月廿二日

今計課

東京醫学校

法中



Blank page with faint vertical lines.

以夜新藥繪圖在法保帳リモ方所此年十二月  
中心同金方中此法元又く少打金云此中モ方一先  
以左方中一全片金方中圖面アリ入用之係中此方  
今日中此方也一少く金方段中一此方也

文部省

明治八年一月廿四日

會計課

東京醫学校

法中







*[Faint handwritten text in vertical columns, mostly illegible]*

曾の為校教授教員に用之申置其後  
教授入教し後係れ其之に用之申置其後  
其の申今高校に用之申置其後  
其の申今高校に用之申置其後

少年三月

東京開成学校

東京医学校

陸中







Blank page with vertical red lines.

学事之旨

今般学校病院身宿舎等は新築有上諸員  
廣く入れ給ひ得敷以て是等支分して日由格と他  
尚府所格入れ給ひ得敷に任置投票に議掲載  
改に改定給ひ得敷に任置投票に議掲載  
此段及馬面若也

明治六年二月廿二日

東京府

東京般学校

法中







（Faint handwritten text in a large rectangular frame, likely bleed-through from the reverse side of the page.)

所校攝内地所許讓渡シ之義及所依頼候処早速所  
許容之旨所迴答ニ預リ領承致シ候然ル如右地所  
内生役体操場ニ不差丈分ハ讓渡シ且長家屋瓦  
ハ所校建築用ニ充候所見込由是又領承致シ候勿  
論當場入用之場所ハ体操場外ノ空地ニテ長家ハ  
右地内ニ有ク候故一同讓渡シ義及所依頼候得  
共當場ニテ強テ必要ト申義ニハ無ク候間所校ニ  
於テ思召次第所毀存有ク度就テハ乍所千數今  
午十二時後所校ヨリ所宅人出張ニテ地坪等所  
検分有ク候様此段再應及所依頼候也

明治八年四月二十九日

司藥場



醫學学校

内中

此等之学校、其目的は、医学の知識を授け、  
其の技術を修め、社会に貢献する事にある。  
其の教育は、基礎的な知識の習得から始まり、  
臨床的な訓練へと進む。其の過程は、厳格な  
カリキュラムに基づき、教授と学生との協同  
で行われる。其の結果、社会に必要とされる  
医療従事者を育成する事となる。

明治百五十二年

東京醫學学校

其校構内空地十八百坪余讓受度段東京司  
藥場ヨリ申出候條差支之筋無之候ハク急速  
引渡方可取計此旨相達候事

明治八年五月二日

文部省



（Faint vertical text in the right column, mostly illegible due to fading. Some characters like "東京" and "大学" are visible at the bottom.)

参考ノ書司事場ヨリ廻ルモノ

今般當場長家新営地面狭小且後未有機糸品  
検査ニ關係スル所ノ植物亦モ照會ノ為メ漸次種  
裁ノ見込ヲ以テ當場北方ニテ醫學校構内空地  
千八百坪餘譲渡シ之義同校ノ協議ニ及候如差支  
無ク由メ何卒右地面當場構内ニ圍込ニ候義御  
許可有之候様至急御決議有之度此段相伺候  
也

明治八年四月二十九日

司藥場長心得柴田承桂



文部大輔田中不二磨殿

伺之趣聞届候事

明治八年五月二日

文部大輔  
田中不二  
磨之印

（Faint handwritten text in the main body of the letter, mostly illegible due to fading.)

分寄普々ニテ

本御久留士町幸當地之内某族前田利嗣所有地  
ト交換之條通設の同お申付此より内務省へ及巡警  
所へ又分寄し通回差方へ然る處より出方へ左圖面  
最前より分り段々變更の場より其江トモ  
池田需用の條々存其条々當代價より買入其条  
目當時より其條より更に前田利嗣より一山掛合相成  
り然る處より近日より購置より及より其条々通其  
りモ而又て在申進其也

明治八年五月四日

文部省

分計課

（Red seal impression, likely reading '文部省印' or similar official stamp.)



東京醫学校

法中

（Faint handwritten text in vertical columns, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. Some characters like '東京' and '醫学校' are visible at the top.)

本御之富士町を寄託し、東京醫学校を建てる所  
其族分田利嗣所より他ノ内交換之儀あり  
然るに趣一應改定され、然るに用他ノ家  
客米百七拾三石四斗と通私より他ノレハ  
代價より以て買上ニ取計、而も此地ノハ  
附ノ若手者地所ノ儀も普通通私規ニ準據  
るに度、而も其等此中ニ建てる也

明治八年四月十日

大久保内務卿

田中又部少輔

東京大学



（Faint handwritten text in vertical columns, mostly illegible due to fading. Some characters like "本館" are visible at the bottom left of the page.)

郎地は隣文部省所用地内一處去之場所故目  
本校建築造営方ニ障碍不少有之明も是之  
其はいふある代償ヲ以買上は事不貲減ふ所  
此地所ノ家数上は安んじはる所匠所願ノ形達  
し若くは古及回差在也

明治九年五月四日

後四位前田利嗣

東京醫学校

伝中



Blank page with vertical red lines.

今更之百四号

上野用地内之中量海石類追々掘取運搬中其  
處建築必用之石不足其處又旧本指跡より石  
類は散一の半 今更掘合より掘り出波た其更他  
換合より更波一の半 片桑田九日あり其より所  
は出張より其地及び其回其地也

明治八年四月八日

會計課

東京醫学校

法中



東坡先生集

知不足齋叢書

會編

卷之三

[illegible]

செவ்வாய்க்கிழமை

工部局總局

...

校長

營後掛

西卿之善

過設司業攝一教及地所、家、身、列、紙、通、因、傷、  
ヲ中來在官信院讀此也

順治八年五月七日



Blank page with vertical lines.

品目及件協議候所技攝内此所當場一圓迄候  
分再撥之候要件數ハ多敷繪圖而通ル候  
之此段所不知之度候也

明治八年五月廿日

司藥場

醫學校

御中

追テ當分之内所技攝場ノ都合モ有ク  
之新營長迄後四間計ノ所ヨリ付増致シ  
置候間此段所中進候也

東京大学



[illegible]

四

四拾之間六合六勺六不盡

四拾四間八舍二勺三不盡

十九百五拾七博六各七勺七不盡

第十二回

月十日

af





四十五間二尺

東

會才言百廿二平

過般以渡古事凡不款建築場之運送之原身本  
御用地之跡及上門内之土亦據之官程石井假  
車路之同々亦事官之御令之故改而石井也  
於今本省差支之入凡以本局爲同美也

本省

明治八年四月十三日

金汁課

東京醫學校

市中



（Faint handwritten text in vertical columns, mostly illegible due to fading. Some characters like '東京' and '大学' are visible in the right margin.)

昨夜寄寓舎新築園中へ涼しく寝る中、夜半  
方、其名は掛りて、此は一名の如く、  
九時は、其方より、夜半段中へ、  
（Faint handwritten text continues in vertical columns.)

明治二年五月十日  
幸省  
金計保

東京女子学校  
（Faint handwritten text below the school name.)



東京大学

*[Faint handwritten text in vertical columns]*

會第六百零八号

法政學部新築万有書院圖書部  
法政學部新築万有書院圖書部  
少相了、以事一應、張子約、分派、又、出、而、法、標、書、  
リ、毛、五、却、其、有、乃、四、回、多、其、也、

印省

明治三十九年九月廿日

會計課

東京醫學校

市平

東京大学



其後收教場生徒寄宿舍等處之違忤者  
因并其地全石強要入用北條氏急取用是意  
出多一錢抄方及少違忤也

丙子年正月廿四日  
 小省多計課

東京女子校

法

陳  
祿  
天  
皇



[Blank lined area for text on the right page]

去勢七百千四子

中後建業用石トシテ上野用地内西北ニ方々  
在リ第年トシテ石法取反お第実名法掛分ニ  
越改め知れ乃由リ一箇年トシテ東東ニ在リ  
方才ト付以所ノ法取ニ有あり也ト云ふ方々ニ  
此等及西田答也

明治八年六月廿日 文部省會計課

東京醫学校

法中



東京大学総合図書館

Blank page with vertical red lines.

富郎地

統文部有請用地於石目學校法建築  
可相成爲別紙圖而朱門之場所此法營  
方相障り此處土地所凡五百畝或得余  
差間モ今之片々而分之内法修市之像之  
掛合之此方之此法明後月計回答之可及  
以教之新少在片以上

明治八年六月廿日

後四位前田利嗣

家扶

東京大学



東京醫學校

此等別紙係圖面留置中ニ在也

利嗣郎地籍文部省所用地籍ヲ旨送呈候  
 其建築之爲別紙圖面由來ノ一ノ場所由送呈  
 方ニお係候ノ旨其地所由旨送呈候條七合之  
 當分ノ内所送呈候申合方所送呈候申合  
 此等其地所由所送呈候申合方所送呈候申合  
 之旨所送呈候申合方所送呈候申合  
 之旨所送呈候申合方所送呈候申合

明治九年三月

利嗣郎前田利嗣家令

前田 晋

東京大学



東京大学

東京醫学校

法中

昌百当校管領御田野金鳥寺校へお出され本  
所法用地内旧天文学教場高村当校と彦柳  
氣之福舎と同地内を校脚氣之福流と交換と  
法中おね年旦奉省令付し保北系利通ヨリモ  
ち之家来法多し此事之当校に於ては交換  
在りモるを文付し保北系高村と奉省に請ふ所  
此等と解公認あり有るは違ふといふ事校にお  
對し以て所斗甘重なり其事請ふ校ヨリ奉  
省へ法中おね年旦奉省令付し保北系利通ヨリモ

八年六月十日 東京開成学校長

東京大学



東京大学

東京大学校長

法中

此等品用之者其收新築之修圖而石序  
此等品用之者其收新築之修圖而石序

會第七百四十八号

一新築費明細表 三冊

此等品用之者其收新築之修圖而石序  
此等品用之者其收新築之修圖而石序  
也

本省

明治八年六月廿五日 會計課

東京大学

法中

東京大学



Blank lined area for writing on the right page.

金身の百部

法杖達採用石不足有上野中坊跡石敷法匠  
の半台は掛合と敷く西の隅に石敷く實地油出  
く上法匠と云ふ此条川右有る牙の付口所  
法出法匠と云ふ此条及以西答也

明治八年七月八日

小南金汁課

東京醫学校

法中



東京醫學校

東京府華族從四位前田利嗣ヨリ其校建築地之為  
本郷之富士町私邸地之内廿百四拾貳坪七合七  
夕獻付之儀別紙寫之通領出最而候條此旨為  
心得相達候事

但地所引渡日限之儀ハ追而可相達候事

明治八年七月十日 文部大輔田中不二麿



東京府和事大久保一翁

華族前田利嗣ヨリ地面獻上願

當府華族從四位前田利嗣私邸之内別紙圖面朱  
引之箇所五百四拾貳坪七合壹々御省醫學校建築  
御用地ニ御買上ケ相成度趣ニテ於本人差支有無御  
問合ニ相成候由之爲於本人者差支モ無之ニ有  
致獻上  
度旨別紙之通願出候間御廻申候尤御聞届相成  
候ハ御賞賜方之儀ハ御省ヨリ可然御取計有  
之度此段上申候也

明治八年五月十日

東京府和事大久保一翁

東京府和事大久保一翁



文部大輔田中不二磨殿

地面獻上願

今報私郎比隣文部省御用地内正不日醫學校  
建築之御目途ニ候處郎地内別紙圖面朱引  
之箇所五百四拾貳坪七合壹夕右御用地正寔出御  
造營方障礙不少有御買上之儀御問合有之候  
就而者敢指圖ニ無御座候間寸地ニハ候得共右  
校正獻上仕度所願御座候仍之圖面等相添此  
段奉願候以上

茅田大區小六區

華族

明治八年五月七日

從四位前田利嗣

東京大學



東京大学

東京府知事大久保一翁殿

東京醫學校

其學校敷地本郷元富土町壹番地之内敬言視署續  
キ地貳千坪程需用ニ趣談願ヨリ掛合哉凡桑具  
校差支ノ有毎至急可申公此方相達候事

明治八年七月二十日 文部大輔田中不二磨

東京大学



東京醫學校  
其學校敷地之條明治七年太政官署名成於号節  
去年官方他才四種之編入成其采此方乃名恒力達  
及事

東京醫學校

其學校敷地之條明治七年太政官署名成於号節  
去年官方他才四種之編入成其采此方乃名恒力達  
及事

明治八年七月二十日 文部大卿田中不二磨



東京醫學校

東京府華族徑四位前田利嗣(子)本郷元富(主町)  
私邸之内五百四拾貳坪七合之久其校建築地之  
為メ獻付之地所可引渡候東明後廿午前第十時  
指取之者同所(可差出此占相違候事)

明治八年八月二日

文部大輔田中不二麿



（Faint handwritten text in vertical columns, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. Some characters like "前" and "後" are visible.)

會第百九号

神田区間町河原物揚場之豫身詳細決中試  
之趣致而此中女子師範学校建築大業  
成最早也又此中女子師範学校此段の回  
答ありし也

文部省

明治八年八月四日

會計課

東京醫学校

法中

而以同所竹多事之蒙受負人九山信者  
不建片并中試之通口人におもてなす中氏



東京大學

東坡志林

謝安石集卷之四

會  
十  
集

2000

蘇軾詩集卷之八

卷之五

卷之五

託

第四區六小區

本江元馬士町走番地

文前田利嗣私郎之内

一 五百四拾貳 七合 五

古者以度前田利嗣之飲酒并別錢濟國之

有添引渡其也

明院八年八月五日

文部省

東京醫學校

康平天聖



五百四拾貳

龍岡

西

春木里

學知齋



本江中縁坂上落天文字教陽法校市入用身病  
 舎り毛は引落る事一之過別本有る方々之長共  
 考有改当城濱尾新之由ゆし之飯当城之  
 いく事をも支す之れ系法落る事一之をもちて有  
 之話于受取た系身一之在而城より毛本有る計課  
 江中一之是れ系法校市都令改事日限法取極々事  
 越し之直之曰所之文負法る事とし之物改法事  
 也

東京

八月十日

開成学校

東京

醫學学校

東京大学



進之今後成生後御氣患者乃、氏市も  
おふ所等にお送り、中、後、月、日、何、預  
中、金、化、也

（Faint handwritten text in multiple columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.)

本御用地内、夜、新、築、地、所、過、般、兵、中、夜、分  
割、以、其、係、有、法、打、合、中、後、家、分、氏、右、右  
法、勿、以、之、の、法、一、名、明、廿、四、日、五、家、中、九、何、法、出、所、分、  
度、也、既、中、其、化、也

印、有

八年八月廿日

曾、計、課

匿、之、城

法、中



東京大学

本邦法用地内教沙教云々市回差之係身於法  
院中後係多々其系田旨字牙八所左掛云々有  
以是出方一付水也

文部省

明治八年九月二日

学務課

東京医学校

法中

東京大学



Blank lined area for writing on the right page.

会第百廿七号

法政教場新築工相事有圖面仕探書等法無令  
之受於安課異之課之為工費法相より以事之五示  
知以會因テ古事於法係世及及法回之其也

印前

明治八年九月二日

會計課

東京醫学校

法中



辻原帳并圖面を寫し候掛  
領り並に

兼而御渡相成候當場地所三十五百九拾坪五勺右  
ハ今般地券諸取方取計可申間御校ニ而モ其  
御處分有之度依而圖面相添及御掛合候也

明治八年九月廿八日

東京司藥場

東京醫學校

御中



本年四月御校搆内地所御讓申受候砌石地所内  
ニ有之長屋瓦共御讓相成度及御依頼候處御校  
ヨリ長屋之内左之儀ハ云々御報有之其當場  
ヨリ右ヲ強テ必要ト申儀ニモ無之云々及御回  
答置候然ルニ御校之建築ハ頗ル壯大ノ結構ニ  
有之右僅少之瓦等ハ御校ニ於テハ必ス御入用  
ト御見做シ相成程之由ニモ有之間敷當場ニ於  
テハ差向心須之事件モ有之右御讓渡シ相成ニ  
於テハ一簾ノ要須ニ被供候間何卒右瓦共御讓  
相成様致度此段更ニ及御依頼候也

明治八年十月二日

東京

司藥場











（Faint vertical text in a red-lined box, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is mostly illegible due to fading.)

牙松翁号

先般所讓受申候地内建家之儀有康保四年之  
末高郎甘旨法掛合之趣要曲致了家元方之是亦有用  
ト申程之儀ニモ合シ候所讓受之儀考先見合在東  
旬々所取毀相成差間合ハ其廿段及法回差也

明治八年十月五日

東京司藥場

東京醫学校

法中



*[Faint vertical text in a red-lined box, likely bleed-through from the reverse side]*

會第千二百五號

本校建築用ツラフ材料方由詮議中事は以テモ  
良材之ヲ有上野法用地ニテモ、杉木臨海口モ西  
本は需要ニテ古法照會ニテ致知に於テ亦、儘  
以テ法ニテ、其末世為、為、面、其、也

文部省

明治八年十月廿日

會計課

東京大学校

法中



東京大學

証

上野

一教師館

走 棟

但来々儘ストーブ五ツお添

冬之通引假此也

明治八年十月廿七日

文部省

東京醫學校





東坡詩集

明倫彙編

文

新編已微其功

野寺春三對六十一で地口

一殊明

三

工部司

124



